

～沖縄県からの1ターン

吉村 正行さんへの インタビュー

- 職業：レザークラフト職人
- 家族構成：夫婦
- 移住歴：1年半
- お気に入りスポット
香肌峡温泉 いいたかの湯



「沖縄では競合他社が増えすぎたので、他所で商売をしようと考えた」と移住のきっかけを話すのは吉村さん夫妻。「出身の愛知に戻るだけではつまらないと思っていました。小さいころ遊んでいた松阪には祖母が住んでいた空き家があり、遊びにきていたこともあって、一度は住んでみたいと思っていたので松阪にした。自宅が作業場にもできるということもあった」と語る。

——移住で不安や苦労はありましたか？

仕事に関しては新規開業となるので、うまくやっついていけるか不安でしたが、こちらに来て多少のギャップがあったが、革のお店が少ないので、今は直しなどの依頼が直接くるようになった。それよりも大変だったのは、家の水回りの改修で、特に下水工事にお金がかかりました。



香肌峡温泉 いいたかの湯

『雪の降る露天風呂に心惹かれました』

——休日は何をしていますか？

お肉や野菜、海産物などがいくらでも美味しく安い。町の人も気さくで話しやすい所が良いですね。移住後の楽しみとして、休日は飯高などに出掛けて温泉めぐりをしています。松阪に来て最初に入った温泉が『香肌峡温泉 いいたかの湯』で、入湯時に雪が降り始めてきたんですが、その光景に惹かれました。それ以外では、カフェ巡りをして、エスプレッソがおいしいお店を探しています。移住者のコミュニケーションがあればよかったですね。同年代の人が少ないのでそこで友達が増やせたら良いなと思っています。

バスなどの本数が少ないなどの交通の不便もある田舎暮らしですが、特に移住する際に必要なコミュニケーション能力。これがあれば誰とでもうまくやれると思います。

——今後の夢は何ですか？

松阪の革を軸に以前住んでいた沖縄と何かやりたいと思っっています。あと、少し前に知り合った猟師の方がいるので、その方とコラボして害獣とかの革を活かした作品が出来たらいいな。

